

近現代語コーパスにおける「(さ) せていただく」の用法

● 高橋 圭子・東泉 裕子*

1. はじめに

現代日本語の「(さ) せていただく」は、謙譲語ないし丁寧語¹として、使用頻度の高まりとともに用法の拡張を見せている。例えば、『現代書き言葉均衡コーパス (Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese: BCCWJ)』には、次のような例がある²。

- (1) 「へんな男の人が高尾さんをたずねてきましたよ。約束より早く来すぎたけど、留守らしいので、入って待たせて頂けませんかって」(LBb9_00064、図書館・書籍、田辺聖子『ジョゼと虎と魚たち』、1985年)
- (2) 箱はご希望の方のみに“無料”でつけさせていただきます。(OC03_01037、特定目的・知恵袋、2005年)
- (3) くしくも私は永田先生の繰り上げ当選でこちらへ来させていただきますして、(OM55_00006、特定目的・国会会議録、第147国会、2000年)
- (4) 昨年、初めて宮古島の大会へ出場させていただいたが、沿道の応援が予想以上に温かくて、本当に感激しました。(PN2o_00012、出版・新聞、『琉球新報』、2002年)

これらの用例の下線部は、(1)は五段動詞未然形につく「使役の助動詞せ+ていただく」、(2)・(3)は一段・カ変動詞未然形につく「使役の助動詞さ+ていただく」、(4)はサ変動詞未然形につく「使役の助動詞せ+ていただく」であるが、本稿では「(さ) せていただく」と総称する。

「(さ) せていただく」は使役の助動詞³と「もらう」の謙譲語「いただく」を構成要素とし、自分側の動作について「相手側の許可(恩恵)を得て……することを許してもらう」(井上1999: 162)と捉えるのが基本とされている。そして、丁寧度を高めるために、実際には相手側の許可(恩恵)を得ていない場合にも拡張して用いられることもある(井上1999、2017、菊地1997a、1997b、2010)。上掲の例のうち、(1)は基本用法、(2) - (4)は、程度の差はあるが、いずれも拡張された用法であると考えられる。

しかし、「(さ) せていただく」の受けとめ方は多様であり、「かなり敬度の高い表現」(菊地1997

1 「謙譲語」とは、自分側から相手側または第三者に向かう行為などに用いられ、その向かう先の人物を立てて述べるもの、「丁寧語」とは、自分側または第三者の行為などに用いられ、話や文章の相手に対して丁寧に述べるものである(文化庁2007: 15, 18)。なお、「謙譲語」は謙譲語 I、謙譲語 A、「丁寧語」は謙譲語 II、謙譲語 B などとも呼ばれるが、本稿では「謙譲語」「丁寧語」を用いる。

2 以下、用例の下線は筆者による。『BCCWJ』の用例の後には、順に、サンプル ID、レジスター、執筆者(書籍)、書名、出版年を記す。

3 使役の助動詞「せる・させる」の用法は強制と許容の2つに大別されるが、「(さ) せていただく」においては許容である。

*ブリティッシュコロンビア大学客員研究員

a:222)との見方もあれば、「恩の先取り・丁寧過剰のフリをしたインポライトネス」(滝浦2016:97-98)との見方もある。このような差の生じる要因は何だろうか。

本稿では、近現代語コーパスを用いて、「(さ)せていただく」の使用のさまをたどり、用法の拡張過程や受けとめ方の多様性に関わる要因の一端を明らかにすることを試みる。

2. 先行研究

「(さ)せていただく」についての先行研究は枚挙に暇がないが、ここでは本稿の目的に関わりが深い、使用の拡張や受けとめ方の多様性に関わるものに限定する。

まず、「(さ)せていただく」の意味と用法、その広がりについての文化庁(2007:40-41)の記述は、(5)のようにまとめられる。

- (5) a. 基本的には、自分側が行うことを、ア)相手側又は第三者の許可を受けて行い、イ)そのことで恩恵を受けるという事実や気持ちのある場合に使われる。
 b. ア)、イ)の条件を実際には満たしていても、満たしているかのように見立てて使う用法があり、それが「(さ)せていただく」の使用域を広げている。
 c. その見立てをどの程度自然なものとして受け入れるかということが、その個人にとっての「(さ)せていただく」に対する「許容度」を決めていると考えられる。

表1は、「(さ)せていただく」の用法の拡張について、菊地(1997b)、文化庁(2007)の記述をまとめたものである⁴。

表1 「(さ)せていただく」の用法の拡張

菊地(1997b:40-43)		文化庁(2007:40-41)	
①(学生が教師に)すみませんが、先生の本を使わせて <u>いただけ</u> ないでしょうか。	I(本当に)“恩恵/許しをいただく”という場合	①相手が所有している本をコピーするため、許可を求めるときの表現「 <u>コピーを取らせて</u> いただけますか。」	基本的な用法に合致していると判断できる。
②(パーティーの出欠の返事で)出席 <u>させて</u> いただきます。 ③(結婚式で媒酌人が)媒酌人として一言ご挨拶 <u>させて</u> いただきます。	II“恩恵/許しを得てそうする”と捉えられる場合	②研究発表会などにおける冒頭の表現「それでは、発表 <u>させて</u> いただきます。」 ③店の休業を貼り紙などで告知するときの表現「本日、休業 <u>させて</u> いただきます。」	ア)の条件がない場合には「発表いたします。」「休業いたします。」のほうが簡潔で良い。
④(結婚式での、新郎の友人のスピーチ)新郎とは十年來のおつきあいを <u>させて</u> いただいております。	III“恩恵/許しを得てそうする”と(辛うじて)見立てることができる場合	④結婚式における祝辞の表現「私は、新郎と3年間同じクラスで勉強 <u>させて</u> いただいた者です。」	ア)・イ)の両条件を満たしていないと感じる場合は不適切と判断される。ただし、結婚式が新

4 表1における菊地(1997b)の例文番号は、「ア、イ…」から「①、②…」に変更した。

す。 ⑤(同、新婦の友人のスピーチ) 私は新婦と三年間一緒にテニスを <u>させていただいた</u> 田中と申します。			郎や新婦を最大限に立てるべき場面であることを考え合わせれば許容されるという考え方もあり得る。
⑥(セールスマンが客に) 私どもはこのたび新製品を開発 <u>させていただきました</u> … ⑦(近所の人に) 私どもは、正月はハワイで <u>過ごさせていただきます</u> 。	IV “恩恵／許しを得てそうする”とは全く捉えられない場合。単に〈何かを「する」ことを、自分を低めて述べる〉だけの用法になっている。	⑤自己紹介の表現「私は、〇〇高校を卒業 <u>させていただきました</u> 。」	ア)・イ)の両条件を満たしていないと感じる場合は不適切と判断される。

このような用法の拡張の許容度をめぐってはさまざまな議論が繰り広げられているが、「ひとかたまりの謙譲表現として違和感なく受けとめる人もいる」(高橋2016: 84)⁵。許容度の差の要因はさまざまに指摘されているものの、管見では、(5c)のいう見立ての自然度にほとんど集約されるようである⁶。しかし、用例(1)・表1①のような「(さ)せていただけますか」という「許可求め」と、用例(2)－(4)・表1②以下のような「(さ)せていただきます。」という言い切りによる「意志」の宣言とでは、受けとめ方が異なるのではないだろうか。

次に、「(さ)せていただく」の用法拡張の要因について、井口(1995)、菊地(1997a・1997b)、井上(1999)、東泉(2010)などの指摘をまとめると次のようになる。

- (6) a. 相手からあたかも恩恵を得ているかのように捉えた表現のほうがそうでない表現より丁寧度が高くなる。
b. 謙譲語の「お／ご～する」⁷、丁重語の「～いたす」は使用できる動詞に制限があるが⁸、「(さ)せていただく」はさまざまな動詞と使用可能なため使いやすい。
c. 「お／ご～する」は、動詞を前後からはさむ点で、後置詞型の現代日本語としては変則的であり、「(さ)せていただく」は動詞のあとにつく点で一般的である。

(6a)は「お／ご～する」や「～いたす」といった非恩恵表現の敬意低減を意味する。また、滝浦(2016)によると、丁重語「～いたす」の敬意が低減して尊大語化し、使用が回避されるよ

5 「(さ)せていただく」の使用域の広がり、使用頻度の高まりについては、菊地(1997a、1997b、2010)、井上(1999、2017)、滝浦(2016)などにも指摘がある。アンケートによる許容度の調査については、例えば、文化庁(1997・2008)、塩田(2016)、椎名(2017)、高橋・東泉(2017)、東泉(2017)などを参照。

6 井上(1999)、松本(2008)など、地域差に要因を説くものもある。

7 基本的に、「お持ちする」のように「～」に和語動詞の連用形が入る場合は「お～する」、「ご案内する」のように漢語サ変動詞語幹が入る場合には「ご～する」の形になる。ただし、「お返事する」など例外も多い。本稿では「お／ご～する」と総称する。

8 「お／ご～する」が使えるかどうかの判定は「究極的には、要するに習慣による面があるといわざるを得ない」(菊地1997a: 291)という曖昧なものである。また、「～いたす」は「報告いたします」のように、サ変動詞語幹としか使えない。

うになり、代替表現として「(さ) せていただく」が使われるようになったという。そもそも、「いたす」をはじめ丁寧語は謙讓語に由来するものが多く、「(さ) せていただく」も同じ過程をたどっていると言える。謙讓語・丁寧語としての「(さ) せていただく」の用法拡張は、「敬意低減」「丁寧語化」という敬語変化一般の流れ(井上1999)に沿ったものである。また、(6b) および(6c)は、簡素化・合理化・一般化という言語変化一般の流れにも沿うものと言えるだろう。

なお、「(さ) せていただく」には(7)・(8)のような「お／ご～(さ) せていただく」の形をとるものもある。

- (7) サインに並んでいただいたのに時間が限られててあんまり一人ひとりとお話することができませんでしたがすごく楽しくお仕事をさせていただきました(OY03_05243特定目的・ブログ、Yahoo!ブログ、2008年)
- (8) このような事情で、誠に申し訳ありませんが、今回のお誘いもご辞退させていただきますたく存じます。(OB5X_00215特定目的・ベストセラー、野口悠紀雄『パソコン「超」仕事法』、1996年)。

「お／ご」は、名詞については、時代とともにより多くの語に付くようになる傾向にあることが指摘されている(井上1999:35)。しかし、「お／ご～(さ) せていただく」の形式の出現を歴史的に調査したものは管見では見当たらない。

さらに、「お訴えをさせていただく」(野口2009:45)のような形式の出現も議論を呼んでいる。「訴え(る)」は従来「お」が付く語ではなかった。また、この形式において「訴え」は格助詞「を」に連なることから名詞、「さ」はサ変動詞「する」である。しかし、「*訴えする」「*訴えをする」⁹はともに非文である。野口(2009:119-128)は、「お訴えをさせていただく」などを「を入れ」と呼んでいる。本稿では、「お／ご～をさせていただく」も考察の対象とする。

以上見てきた先行研究を踏まえ、以下では、近現代語のコーパスから「(さ) せていただく」の用例を収集し、用法の拡張や形式・機能について調査する。

3. 調査の目的と方法

本稿では、近現代語のコーパスを用い、「(さ) せていただく」の歴史を調査する。具体的な調査目的は次のとおりである。

- (9) a. 「(さ) せていただく」はいつ頃から観察されるか。
b. 「(さ) せていただく」の拡張された用法はいつ頃から観察されるか。
c. 「お／ご～(さ) せていただく」や「を入れ」はいつ頃から観察されるか。
d. 「(さ) せていただく」はどのような形式・機能で用いられているか。

本稿で使用するコーパスの名称とその所収年代は以下の通りである。

●『日本語歴史コーパス(CHJ)』『明治大正編I雑誌』1890年代～1920年代

9 以下、「*」は非文であることを示す。なお、「を入れ」には、「お／ご～をさせていただく」の他に、「ビジョンを民主党さんにもお出しをいただきたい」「リクエスト曲をお届けをしました」などもある(野口2009:119-128)。

- 『現代日本語書き言葉均衡コーパス通常版 (BCCWJ-NT)』 1970年代～2000年代
- 『日本語話し言葉コーパス (Corpus of Spontaneous Japanese : CSJ)』 1999～2003年

いずれも国立国語研究所コーパス開発センターによるもので、CHJは「中納言」2.3、BCCWJおよびCSJは「中納言」2.2.2.2を用い、2017年5月から2018年1月、次のような条件により短単位検索を行った。

- キー：品詞 動詞
- 後方共起1：品詞 助動詞；活用型 下一段サ行；活用形 連用形
- 後方共起2：品詞 助詞—接続助詞；語彙素読み テ
- 後方共起3：品詞 動詞；語彙素読み イタダク

得られた検索結果に対し誤解析などを手作業で修正し、分析対象とするデータを決定した。

4. 近代語における「(さ) せていただく」

『日本語歴史コーパス (CHJ)』は、奈良時代編・平安時代編・鎌倉時代編・室町時代編・江戸時代編・明治大正編から成る¹⁰が、検索された「(さ) せていただく」の用例20はすべて、明治大正編のものであった。これに、松本 (2008) 所収の用例27とあわせ、重複する1例を除いた計47例を近代語の考察対象とする。松本 (2008) は、「CD-ROM版の新潮文庫のシリーズ、そして青空文庫や国文学資料館、日国オンラインなどのインターネット資料を検索し、さらにさまざまな印刷物を渉猟」(松本2008:358)して、明治・大正期における「(さ) せていただく」の用例を収集したものである。

表2・3はそれぞれ、松本 (2008)、CHJの「(さ) せていただく」の年代別分布をまとめたものであり、(10) - (14)は松本 (2008) からの用例である¹¹。

- (10) どうぞ、御当家様はおお客様が多いことゆえ、療治をさせて戴きたい (三遊亭圓朝「菊模様皿山奇談」1871)
- (11) 五重塔の仕事を私に為せていただききたい (幸田露伴『五重塔』1892)
- (12) あれもお前お蔭さまで此間は昇給させて頂いたし、(樋口一葉『十三夜』1895)
- (13) アンナというのが本名ではあるが、ガギンはアーシャとばかり云いますから、私にもそう云わせて戴こう (二葉亭四迷『片恋』1896)
- (14) 「お酌をさせていただきましょうね」と、箆箭を放れて酌をした。(広津柳浪『今戸心中』1896)

(10)は、現在明らかにされている「(さ) せていただく」の用例の最も早いものである。(10)・(11)は話し手が相手に仕事の許可を求めるセリフ、また、(12)は権勢家の原田に嫁いだ娘のお閨に、母親が、原田のおかげでお閨の弟の亥之助が昇給したと語るセリフである。(10) - (12)は、(5a)の挙げる2条件が満たされた基本用法と見ることができる。これに対し、(13)・(14)

10 2018年1月の本稿執筆時点では、江戸時代編は試作版である。

11 松本 (2008) からの用例は、かなの踊り字 (ゝ) を当該のかなに置き換える。

表2 松本(2008)における「(さ)せていただく」の分布

年代	用例数
1872	1
1880-89	0
1890-99	5
1900-09	5
1910-19	9
1920-26	7
合計	27

表3 CHJにおける「(さ)せていただく」の分布

雑誌名	年代	用例数
明六～太陽	1874-1901	0
女学世界	1909	3
太陽	1909	1
	1917	4
	1925	7
婦人倶楽部	1925	5
合計		20

は(5b)のいう見立てに基づく拡張用法と見られる。

CHJでは、「明六雑誌」(1874-75)、「国民之友」(1887-88)、「女学雑誌」(1894-95)、「太陽」(1895-1925)には「(さ)せていただく」の例は合計20例あり、1909年が初例である。(15)・(20)は基本用法、(16) - (19)は拡張用法と見られる¹²。

- (15) イエイエ私共の子供はこれだけ学問をさせて頂ければ沢山です、(『女学世界』1909年3号、飯田百合子「小供に対する父母教師の感化」)
- (16) 私も度々短文や和歌を投書させて頂いて居ますが、(『女学世界』1909年8号、桃花子「令嬢倶楽部」)
- (17) まア一寸覗かせて頂きますよ。(『太陽』1909年、第15巻4号、三津木春影「産婆」)
- (18) 私、随分我が儘にさせて頂いて居りますわ(『太陽』1917年、第23巻4号、里見弴「恐ろしき結婚」)
- (19) 事実有りのまを書かせて頂きます。(『婦人倶楽部』1925年、第6巻6号、佐々木邦「諧謔小説 模範的告白もの」)
- (20) 「夫人、今晚お宅まで送らせて頂けましようか?」(『太陽』1925年、第31巻9号、三上於菟吉「長篇小説 蛇人(第七回)」)

なお、(14)は花魁の吉里、(15)は児童の親、(17)は産婆、(18)は糸子、(19)は或る男のセリフである。松本(2008)およびCHJの用例は、会話文に多く見られる。

以上の観察から、「(さ)せていただく」は明治初期の1870年代には使われており、1890年代後半から20世紀初めには雑誌や小説の会話文にも登場するようになったこと、用法としては、基本用法に加え、見立てによる拡張用法も出現していることがわかる。ただし、いずれの見立ても無理のない表1のIIレベルのものであり、III・IVのような例はない。

次に、「(さ)せていただく」の形式を観察する。表4は「(さ)せていただく」に前接する動詞をまとめたものである。47例中21例(約44.7%)がサ変動詞である。表5は、「サ変動詞さ+

¹² CHJからの用例は、旧字体を新字体に改める。用例の後には、順に、雑誌名、出版年、巻・号、著者、題名を記す。

せていただく」の前接部をまとめたものである。小林（2004）などに倣い、サ変動詞語幹で名詞としても用いられる語を本稿では動名詞と呼ぶ¹³。表5からは、格助詞「を」の挿入7例、「お／ご」の添加3例が観察される。なお、サ変以外の動詞には、「お／ご」の添加も「を入れ」も見られなかった。

表4 近代語データにおける「(さ) せていただく」に前接する動詞

活用の種類	用例数	内訳
サ行変格	21	(表5参照)
五段	16	書く2・聴く2・座る2・描く・言う・語る・遣る・出す・送る・塞ぐ・覗く・お目にかかる・火に当たる各1
下一段	8	述べる2・入れる・考える・決める・食べる・付ける・勤める各1
上一段	2	見る・信じる各1
合計	47	

表5 近代語データにおける「さ(サ変) + せていただく」の前接要素

前接要素	用例数	内訳
動名詞	10	拝見3・見物2・筆録・試験・投書・失礼・昇給各1
動名詞+を	5	試験・学問・療治・仕事・洗ひそそぎ各1
お／ご+動名詞	1	(お) 相伴
お／ご+動名詞+を	2	(お) 酌・(ご) 看病
その他	3	
合計	21	

表6は、「(さ) せていただく」を用いた文の機能をまとめたものである。47例中20例が話し手の意志を表すために用いられていることがわかる。うち、(19)のように「(さ) せていただきます。」と強い言い切りの形をとるものが8例にのぼる。

表6 近代語データにおける「(さ) せていただく」を用いた文の機能

機能	用例数	形式の例	用例番号
許可求め	1	可能形+ますか	(20)
意志	20	ます・ましょう・終止形・意向形	(13), (14), (17), (19)
希望	12	たい・たいと思います	(10), (11)
叙述など	14	た・ました・ています	(12), (15), (16), (18)
合計	47		

13 和語・漢語などの語種は不問とする。

以上の調査から、1890年代後半から20世紀初めにおいて、「(さ) せていただく」に前接する動詞はサ変動詞が最も多く、格助詞「を」を伴うもの、格助詞「を」に連なることで名詞として扱われている部分に「お／ご」が添加されるものも少数ながら使われていたことがわかる。また、「(さ) せていただく」の機能については、話し手の意志を表す用例が最も多く、この頃からすでに「(さ) せていただきます。」のような強い言い切りの形が多用されていたことも観察される。

5. 現代語における「(さ) せていただく」

5.1. 『日本語話し言葉コーパス (CSJ)』

「(さ) せていただく」のみならず、敬語は一般的に、書き言葉より話し言葉に多用される。現代語のコーパスの中で、まず、学会発表を主なデータとする、『日本語話し言葉コーパス (CSJ)』における「(さ) せていただく」の用例1206を分析する。

表7は、「(さ) せていただく」に前接する動詞を活用の種類別にまとめたものであり、サ変動詞が半数以上を占めていることがわかる。

表7 CSJにおける「(さ) せていただく」に前接する動詞

活用の種類	用例数	%	異なり語数	例 (上位3語まで)
サ行変格	662	54.9%	58	発表158、お話し80、説明40
五段	334	27.7%	53	終わる134、使う21、呼ぶ19
下一段	203	16.8%	31	述べる51、始める32、まとめる22
上一段	5	0.4%	2	見る4、借りる1
カ行変格	2	0.2%	1	来る2
合計	1206			

表8は、「(さ) せていただく」の全体と用例数上位5位までの動詞の、言い切り「(さ) せていただきます。」の形式での使用度数とその割合を示したものである。全体では1206例中、48.6%の586例が「(さ) せていただきます。」という言い切りの形をとっている。そして、用例数1位の「発表する」と2位の「終わる」は8割以上が「発表させていただきます。」「終わらせていただきます。」という言い切りである。発表の開始および終了時の定型表現となっているさまがうかがえる。

表8 CSJにおける「(さ) せていただきます。」の使用度数と割合

	～ます。	(%)	全用例数
全体	586	48.6	1206
発表させていただ(く)	134	84.8	158
終わらせていただ(く)	116	86.6	134
お話しさせていただ(く)	31	38.8	80
述べさせていただ(く)	26	51.0	51
始めさせていただ(く)	30	93.8	32

「発表させていただきます。」について、関連する形式の用例数をまとめたものが表9である。「お／ご～する」「～いたす」という謙讓語や丁重語の従来の形式の合計より「(さ) せていただく」という新しい形式のほうが多用されていることがわかる。

表9 CSJにおける「発表させていただきます」と関連形式

	用例数	(%)	
ご発表 させていただきます。	1	0.2	サセテイタダク 303例 61.7%
発表 させていただきます。	134	27.3	
発表 さしていただきます。	159	32.4	
発表をさせていただきます。	7	1.4	
発表をさしていただきます。	2	0.4	
ご発表 いたします。	1	0.2	イタス 115例 23.4%
発表 いたします。	114	23.2	
発表をいたします。	0	0.0	
ご発表 します。	0	0.0	スル 73例 14.9%
発表 します。	73	14.9	
発表をします。	0	0.0	
合計	491	100.0	

表10 CSJにおける「サ変動詞さ+せていただく」の「お／ご」「を」の有無

	φ	お／ご～	～を	お／ご～を	計
発表	158	0	9	0	167
話し	1	80	11	37	129
説明	38	10	13	3	64
報告	28	10	6	0	44
紹介	12	7	4	2	25
省略	14	0	1	0	15
割愛	13	0	0	0	13

表9では、格助詞「を」の挿入や「お／ご」の添加はさほど多くない。しかし、これは語によってかなり様相が異なるようである。CSJにおいて「サ変動詞さ+せていただく」の使用度数10以上の動詞について、「お／ご」および「を」の有無をまとめたものが表10である。個々の動詞について、さらにきめ細かな調査と分析が必要である¹⁴。

14 CSJ、BCCWJともに、本稿の段階では、コーパスの検索機能により拾える用例のみを対象とした。すなわち、「動名詞+を」と「させていただく」の間に「ちょっと」など他の要素が介在した場合や、「報告はさせていただきます」のようにヲ格が副助詞「は」「も」などで表された場合は調査対象としない。

5.2. 『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』

BCCWJ においては、「(さ) せていただく」は全6308例が用いられている。

表11は、BCCWJ のサブコーパスごとに「(さ) せていただく」の用例数をまとめたものである¹⁵。最多は「国会会議録」(41.8%)である。次いで、話し言葉に近い書き言葉で綴られることが多い「ブログ」(19.8%)、「知恵袋」(12.0%)と続き、以上3つのサブコーパスの用例が全体の7割以上を占めている。一般的に敬語は話し言葉で多用されるが、そのことが表11からも見てとれる。本稿では BCCWJ については「国会会議録」のデータの分析にしぼり、他のサブコーパスの分析は今後の課題とする。

表12は、BCCWJ 「国会会議録」における「(さ) せていただく」に前接する動詞を活用の種類ごとにまとめたものであり、サ変動詞が最多である¹⁶。

表13は、「サ変動詞さ+せていただく」の前接部をまとめたものである。近代語データとは異なり、非動名詞も出現していることがうかがえる。(21) - (23) はその例である。(21) の「出し」、(22) の「語り」は、動詞の連用形であるが、名詞としての用法はなく、サ変動詞の語幹でもない。また、(23) は二重ヲ格になっている。

- (21) 将来の道路交通需要のフレームの推計の方は、従来に比べますとかなり低目な推計として、御議論をいただく前提としてお出しさせていただいている、こういうことでございます。(OM61_00010、特定目的・国会会議録、第159回国会、2004年)
- (22) この新直轄、すなわち税金でつくるといふ新たな手法を採用させていただき、昨年の国幹会議でお語りをさせていただきまして、多くの国幹会議委員の方々の賛成を得てこういうふうに整理をさせていただいたところでございます。(OM61_00010、特定目的・国会会議録、第159回国会、2004年)
- (23) バリスティック・ミサイル・ディフェンスを警察権の行使ということでいつまでも呼んでいられるのかどうかということは、やはり政府だけではなく、政治家のテーマとしても早急に理論的な組立てをする必要をやはり感じますことを御指摘をさせていただいておきます。(OM65_00008、特定目的・国会会議録、第162回国会、2005年)

表14は、「(さ) せていただく」を用いた文の機能をまとめたものである。ここから、BCCWJ 「国会会議録」においては基本用法の中心の許可求めはごくわずかであり、拡張用法が中心の意志や希望、叙述などを表す文が多いことがわかる。

- (24) まずスターリンクが依然として検出されているという事実に対してどういうふうにお考えか、その辺、お伺いをさせていただけますか。(OM64_00001、特定目的・国会会議録、第151国会、2001年)
- (25) それについて若干御説明をさせていただきます。(OM61_00006、特定目的・国会会議録、

15 特定目的の「白書」・「法律」(ともに1976-2005年収録)は「(さ) せていただく」の用例が見られないため、表11には載せていない。表の中のぬりつぶしのセルは、当該のデータがコーパスに存在しないことを示す。

16 BCCWJ 全体の「(さ) せていただく」についても、全6308例中、最多はサ変3922例(62.2%)であり、以下、五段1622例(25.7%)、下一段716例(11.4%)、上一段46例(0.7%)、カ変2例(0.03%)である。

表11 BCCWJにおける「(さ)せていただく」の分布

サブコーパス 収録年代		1976- 1980	1981- 1985	1986- 1990	1991- 1995	1996- 2000	2001- 2005	合計	%
出版	新聞 2001-2005						13	13	0.2
	雑誌 2001-2005						122	122	1.9
	書籍 2001-2005						580	580	9.2
図書館	書籍 1986-2005			77	105	182	190	554	8.8
特定の 目的	教科書 2005-2007						1	1	0.0
	広報誌 2008						264	264	4.2
	ベストセラー 1976-2005	11	32	28	21	23	15	130	2.1
	知恵袋 2005						758	758	12.0
	ブログ 2008						1246	1246	19.8
	韻文 1980-2005	0	0	0	0	0	1	1	0.0
	国会 1976-2005	177	232	312	419	648	851	2639	41.8
合計		188	264	417	545	853	4041	6308	100.0

表12 BCCWJ「国会会議録」における「(さ)せていただく」に前接する動詞

活用の種類	用例数	%	異なり語数	例（上位3位まで）
サ行変格	1601	60.7		（表13参照）
五段	613	23.2	84	終わる105・聞く82・やる46
下一段	406	15.4	52	申し上げる65・差し控える59・述べる48
上一段	18	0.7	1	見る18
カ行変格	1	0.04	1	来る1
合計	2639	100.0		

表13 BCCWJ「国会会議録」における「さ（サ変）＋せていただく」の前接要素

前接部	用例数	異なり語数	例（上位3位まで）
動名詞	596	144	質問94、検討53、勉強22
お／ご＋ 動名詞	99	17	説明39、質問21、答弁10
動名詞＋を	421	129	質問106、議論24、確認23
非動名詞＋を	16	11	話6（以下度数1につき略）
お／ご＋ 動名詞＋を	76	19	質問35、説明14、提案5
お／ご＋非動名詞	99	11	答え30、伺い20、出し17
お／ご＋非動名詞＋を	117	12	話44、答え28、伺い18
その他	177		
合計	1601		

表14 BCCWJ「国会会議録」における「(さ) せていただく」を用いた文の機能

機能	用例数	%	形式の例	用例番号
許可求め	1	0.1	可能形＋ますか	(24)
意志	108	6.7	ます・ましょう・終止形・意向形	(25)
希望	140	8.7	たい・たいと思います	(26)
叙述など	1352	84.4	た・ました・ています	(27)
合計	1601			

第162国会、2005年)

- (26) 高速道路のあり方に民営化がどういった影響を与えるかという視点を中心に質疑をさせていただきたいと思います。(OM61_00010、特定目的・国会会議録、第159国会、2004年)
- (27) そこが推計値である、試算であるということを、政府委員から再三再四御答弁させていただいているところでございます。(OM61_00010、特定目的・国会、第159国会、2004年)

(25) に見られるように、「(さ) せていただきます。」の言い切りは、謙譲表現を用いた腰の低さとは裏腹に、相手に有無を言わせぬ話し手の強い意志の表明となっている。(26) の「(さ) せていただきたいと思います。」という希望の表現、(27) の叙述の表現の場合も同様である。このような齟齬が、「(さ) せていただく」という表現に賛否両論が出現する要因の一つとなっているのではないと思われる。

表15は、使用度数上位5位の動詞について、「～ます。」「～たいと思います。」の使用度数と割合をまとめたものである。BCCWJ「国会会議録」でもCSJと同様、発言の最初や最後に言い切りの形が多用されていることがわかる。

表15 BCCWJ「国会会議録」における「(さ)せていただく」の主な用例

	～ます。		～たいと思います。		全用例数
	用例数	%	用例数	%	
全体	453	17%	343	13%	2639
質問させていただ(く)	29	25%	30	26%	114
終わらせていただ(く)	81	77%	10	10%	105
聞かせていただ(く)	3	4%	21	26%	82
差し控えさせていただ(く)	2	3%	21	36%	58
述べさせていただ(く)	22	46%	5	10%	48

使用度数最多の「質問させていただく」について、「ご」「を」の有無を年代ごとにまとめたものが表16・表17である。表16は使用度数、表17は各年代において当該形式の占めるパーセンテージである。

表16 BCCWJ「国会会議録」における「質問させていただく」の年代別形式

	1976-1980	1981-1985	1986-1990	1991-1995	1996-2000	2001-2005	合計
ご質問 させていただく	0	0	3	6	10	2	21
質問 させていただく	4	3	6	21	27	33	94
ご質問をさせていただく	2	0	2	9	16	6	35
質問をさせていただく	2	5	5	21	35	38	106
合計	8	8	16	57	88	79	256

表17 BCCWJ「国会会議録」における「質問させていただく」の年代別形式の割合

	1976-1980	1981-1985	1986-1990	1991-1995	1996-2000	2001-2005	合計
ご質問 させていただく	0%	0%	14%	29%	48%	10%	100%
質問 させていただく	4%	3%	6%	22%	29%	35%	100%
ご質問をさせていただく	6%	0%	6%	26%	46%	17%	100%
質問をさせていただく	2%	5%	5%	20%	33%	36%	100%
合計	3%	3%	6%	22%	34%	31%	100%

「ご」「を」の添加は1980年代後半から1990年代にかけて増加し、1990年代後半はピークに達していることがわかる。2000年代以降は頭打ちのように見えるが、これはデータの性質に起因するものか、言語変化のS字カーブと呼ばれる現象の一環なのか、あるいは他の要因によるものかは、現段階では決められない。さらなる調査が必要である。

6. 考察

以上、近現代語のデータから、「(さ) せていただく」の使用のさまを概観してきた。本稿のはじめに設定した調査目的を再掲し、所見を述べる。

- (9) a. 「(さ) せていただく」はいつ頃から観察されるか。
b. 「(さ) せていただく」の拡張された用法はいつ頃から観察されるか。
c. 「お／ご～(さ) せていただく」や「を 入れ」はいつ頃から観察されるか。
d. 「(さ) せていただく」はどのような形式・機能で用いられているか。

(9a) については、第4節で見た通り、現在見出せる最も初期の用例は1871年のものである。ただし、これがある程度の使用度数を見せるのは、1900年代以降のようである。

(9b) については、明治期には基本用法に加え、拡張用法もすでに観察される。ただし、いずれも見立てに無理のないものである。見立てが辛うじて可能になりうるような例や全く不可能な例の出現時期の調査は、今後の課題である。

(9c) については、少数ながら明治期にも観察される。しかし、現代のように非動名詞にまで及ぶものはない。もともと、「(さ) せていただく」はサ変動詞に最も多く用いられる傾向にある。サ変動詞語幹は、名詞としても機能しうることから動名詞とも称される。一方、サ変以外の和語動詞は、「読む→読み」「まとめる→まとめ」のように連用形が名詞化される。「～(さ) せていただく」は動詞の謙讓表現だが、「～」の部分が名詞と同じ形をとることから、「お／ご」や格助詞「を」の添加が生じてきたのかもしれない。この仮説の立証は今後の課題である¹⁷。

(9d) については、「(さ) せていただきます。」という言い切りの形で話し手の意志を宣言する用法が近現代とも多い。特に、結婚披露宴のスピーチや学会発表、国会質疑などの改まった場において定型表現として多用される傾向にある。

このような観察から、本稿のデータの範囲では、次のような指摘ができる。

- (28) a. 「(さ) せていただく」は、基本用法より拡張用法が、改まった場での定型表現として多用されている。
b. 「(さ) せていただく」は語構成上は謙讓表現のはずだが、「ます。」の言い切りが多用されて話し手の意志を強く示す機能のものが多。これが居丈高な印象を生み、謙讓表現とのギャップが慇懃無礼と受け取られることがある。

7. おわりに

本稿では、近現代語のコーパスを資料とし、「(さ) せていただく」の用法のさまを調査し、拡張や形式の変化の過程の一端を明らかにすることを目指した。

しかし、今後に残された課題も多い。そのいくつかは本文ですでに指摘したが、それ以外にも、山田(2014)、滝浦(2016)、権名(2017)などで提起されているベネファクティブとポライトネスとの関係などがある。

また、「(さ) せていただく」の前史として、西日本中心の「(さ) せてもらう」という表現が

17 一般的に、日本語は名詞指向性の強い言語である(新屋2014)。また、田中(2012)なども、ニュース報道の見出しなどにおいて動詞文が名詞文として用いられる傾向について論じている。

挙げられることがある（松本2008、野口2009など）。「ちょっとあがらせてもらおうよ」と言いながら家に入ってくる知人の、親しさと礼儀を兼ね備えた表現として言及されることが多い。これに身分差が伴うと、用例（17）「まあ一寸覗かせて頂きますよ。」のように、「もらう」を謙譲語「いただく」、普通体の文末を丁寧体にして用いることがあった。これが現代語の「（さ）せていただく」につながっていると考えられる。しかし、鈴木（1997）が指摘するように、丁寧体世界と普通体世界には異なる語用論的ルールがある。「（さ）せてもらう」と「（さ）せていただく」もパラレルの関係ではないはずである。この差も、「（さ）せていただく」の受けとめ方に大きな差のある要因の一つであるかもしれない。

今後も、さらに調査・研究を続けたい。

参考文献・URL

- 井口裕子（1995）「謙譲表現「～（さ）せていただく」について—結婚披露宴における使用例を中心に—」
國學院大学『國學院雑誌』第96巻第11号（通巻1063号），pp. 54-66.
- 井上史雄（1999）『敬語はこわくない』講談社現代新書
- 井上史雄（2017）『新・敬語論なぜ「乱れる」のか』NHK出版新書
- 菊地康人（1997a）『敬語』講談社学術文庫
- 菊地康人（1997b）「変わりゆく『させていただく』」『言語』26-6，pp. 40-47.
- 菊地康人（2010）『敬語再入門』講談社学術文庫
- 国立国語研究所コーパス開発センター http://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/
- 小林英樹（2004）『現代日本語の漢語動名詞の研究』ひつじ書房
- 椎名美智（2017）『「させていただく」という問題系—『文法化』と『新丁寧語』の誕生—』加藤重広・滝浦真人編『語用論フォーラム2』pp. 75-105，ひつじ書房
- 塩田雄大（2016）「“させていただきます”について書かせていただきます～2015年「日本語のゆれに関する調査」から②～」『放送研究と調査』2016年9月（第66巻第9号），pp. 26-41.
https://www.nhk.or.jp/bunken/research/kotoba/pdf/20160901_7.pdf
- 新屋映子（2014）『日本語の名詞指向性の研究』ひつじ書房
- 鈴木睦（1997）「日本語教育における丁寧体世界と普通体世界」田窪行則編『視点と言語行動』pp. 45-76，くろしお出版
- 高橋圭子（2016）『自然な敬語が基本から身につく本』研究社
- 高橋圭子・東泉裕子（2017）「近現代語コーパスにみる『（さ）せていただく』の用法」NINJAL国際シンポジウム「第10回日本語実用言語学国際会議（ICPLJ）」2017年7月8日，国立国語研究所
- 滝浦真人（2016）「社会語用論」加藤重広・滝浦真人編『語用論研究法ガイドブック』pp. 77-103，ひつじ書房.
- 田中伊式（2012）「ニュース報道における『名詞+です』表現について～『イチロー選手が電撃移籍です』『尖閣諸島で新たな動きです』～」『放送研究と調査』2012年10月（第62巻第10号），pp. 16-29.
http://www.nhk.or.jp/bunken/summary/research/report/2012_10/20121002.pdf
- 野口恵子（2009）『バカ丁寧化する日本語』光文社新書
- 東泉裕子（2010）『「（さ）せていただく」と『いたす』の競合』『特定領域研究「日本語コーパス」平成21年度公開ワークショップサテライトセッション予稿集』pp. 27-32.
- 東泉裕子（2017）『「～（さ）せていただく」の許容度について』第21回ひと・ことばフォーラム特別公開研究会発表，東京大学駒場キャンパス，2017年3月4日。

文化庁（1997）「平成8年度『国語に関する世論調査』の結果について」

http://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/kokugo_yoronchosa/h_08

文化庁（2007）『敬語の指針』文化審議会答申

http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/sokai/sokai_6/pdf/keigo_tousin.pdf

文化庁（2008）「平成19年度『国語に関する世論調査』について」

http://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/kokugo_yoronchosa/h_19

松本修（2008）「東京における『させていただく』」関西大学国文学会『国文学』92, pp.355-367.

https://ci.nii.ac.jp/els/contents_110007153313.pdf?pid=ART_0009106914

山田敏弘（2014）『日本語のネネファクティブー「てやる」「てくれる」「てもらう」の文法ー』明治書院

付記

本稿は、NINJAL国際シンポジウム「第10回日本語実用言語学国際会議（ICPLJ）」（2017年7月8日）におけるポスター発表の一部をもとにしている。貴重なコメントをくださった参加者の皆様に感謝します。また、本稿掲載をご快諾くださった跡見学園女子大学にも心より御礼申し上げます。